

木曽路はすべて山の中
山を守り山に生きる

日本遺産 木曽物語り



日本遺産をめぐる木曽路の旅

(※コース行程は一例です ※所要時間は車で移動した場合のおよその目安です)

宿場と中山道を巡る歴史コース(これより北木曽路)



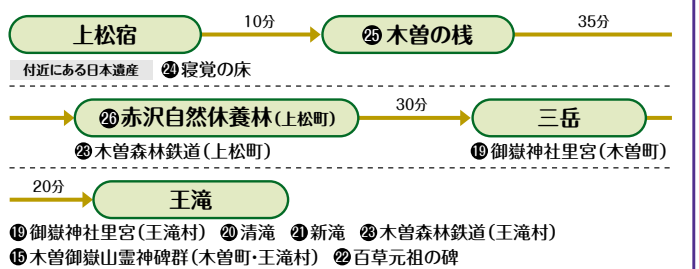
江戸と京を69次(宿)で結ぶ中山道。木曽街道には11宿の宿場が栄え、石畳の道や風情ある町並みが、まるで江戸時代にタイムスリップしたような気分になります。



檜の森と神の滝をめぐる



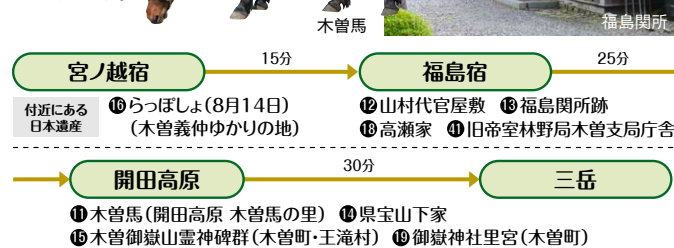
深い山合いの森に荘厳な水音を響かせる「清滝」と「新滝」。森林浴発祥の「赤沢自然休養林」では、樹齢300年の美しい天然の森や森林鉄道を堪能できます。



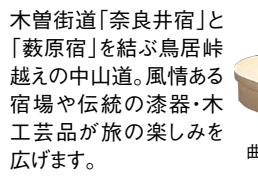
関所の宿場町から木曽馬の里へ



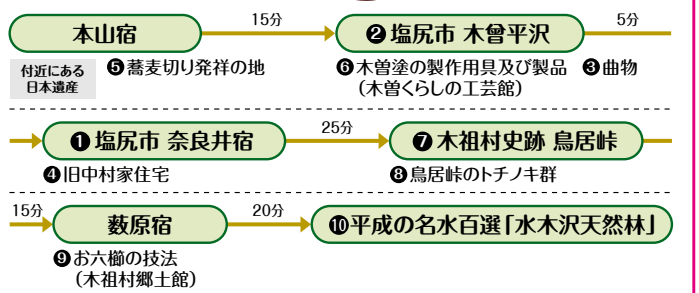
天下の四大関所のひとつ福島関所、なまこ壁の土蔵や崖家造りの福島宿。霊峰・御嶽山麓に広がる開田高原では、かわいい木曽馬が心を和ませてくれます。



宿場と伝統工芸を訪ねて(これより南木曽路)



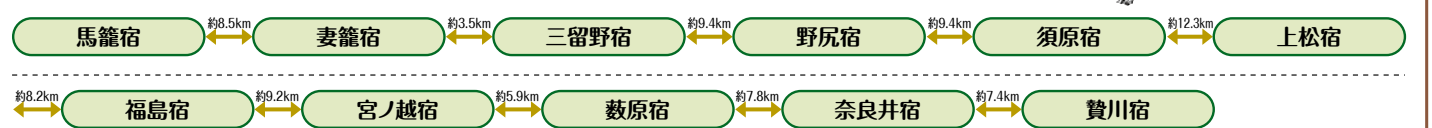
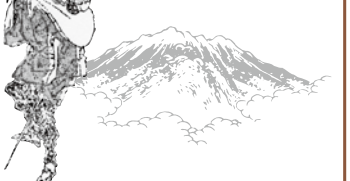
木曽街道「奈良井宿」と「数原宿」を結ぶ鳥居峠越えの中山道。風情ある宿場や伝統の漆器・木工芸品が旅の楽しさを上げます。



中山道木曽11宿 道草の旅・歩き旅



木曽11宿を結ぶ歴史の道を、ゆっくり歩いてみませんか。北から、南から、連泊しての踏破、季節ごとに歩き継ぐなど人気の街道歩きです。



※「信州木曽路 中山道を歩く」ウォーキングガイドマップパンフレットがあります。木曽観光連盟までお問い合わせください。

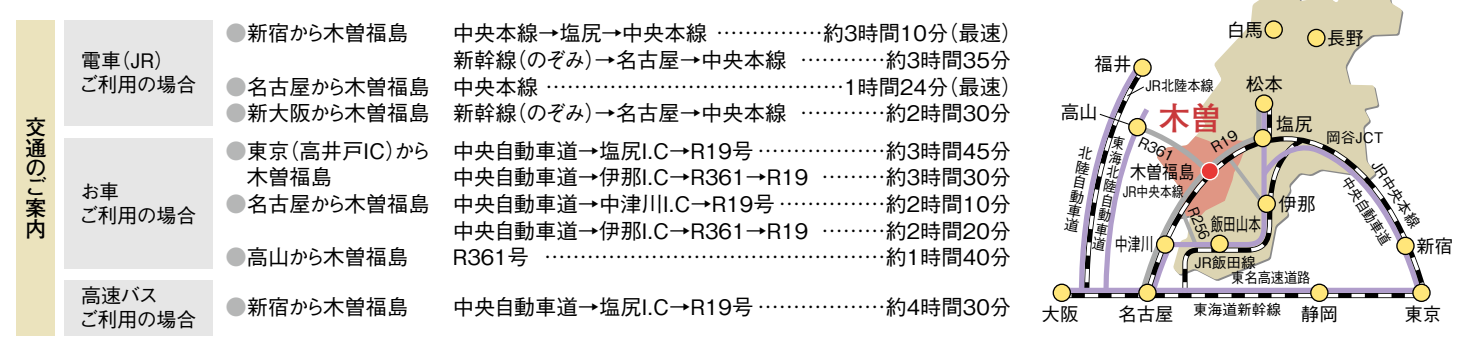
木曽地域

文化遺産活性化協議会



お問い合わせ

木曽広域連合地域振興課 TEL.0264-23-1050
木曽観光連盟 TEL.0264-23-1122 <https://kiso-nagano.ne.jp/>
長野県木曽郡木曽町日義4898-37



日本遺産

木曽物語り

木曽路はすべて山の中
山を守り山に生きる

長野県西部の木曽地域は、西に霊峰・御嶽山、東に秀峰連なる中央アルプスを仰ぎ、中央に深い谷を刻む木曽川と木曽路・中山道が続く。幾重にも重なる山々は豊かな森と水を育み、奥深い歴史と固有の文化・伝統を継承する古き良き日本の原風景を彷彿させます。

木曽地域と木年貢

木曽谷の約9割が森林で占められ、限られた耕作地と農作物では領民を養うことができず、豊臣秀吉の時代から米年貢の代わりに木年貢が課せられ、領民には米が配給されるなど、豊かな森林資源が木曽の暮らしを支えていました。

厳しい森林保護政策

木目が緻密な木曽檜は、古来から神社仏閣建築に重用され、伊勢神宮の「式年遷宮」の「神木」として使われてきました。この木曽檜に危機が訪れたのは、江戸城・駿府城・名古屋城など、城郭



赤沢自然休養林

や城下町造営用材として膨大に伐り出された江戸時代初期のことでした。木曽谷を所轄する尾張藩は、木曽檜をはじめ、「木曽五木」の伐採を禁止するなど山林の保護政策に乗り出しました。檜一本首ひとつ 枝一本腕ひとつとまで言われた規制は、木材で生計を立てていた領民にとって厳しい経済統制となりました。

地場産業の奨励

山林の伐採を制限された木曽領民には、風土に根ざした地場産品の開発・生産が奨励され、藩から支給される「御免白木」を加工した曲物・漆器・お六櫛などの木製品、養蚕や御嶽山修験者ゆかりの薬草製薬・百草など、地場の特徴を生かした産業振興を図りました。農民には、小型で性格が温和な働きの「木曽馬」の飼育を奨励し、馬市での売買、農耕・運送にと江戸時代後期には数千頭が飼育されていました。

街道と宿場の賑わい

江戸時代の五街道のひとつである中山道の整備と共に、木曽十二宿が急速に発展します。木曽谷の山河情景は多くの文人墨客を魅了し、詩歌や版画となって世に知られることになり、宿場は旅人や地場産品の生産・販売・流通の拠点として賑わい、木曽谷の経済を牽引することになりました。

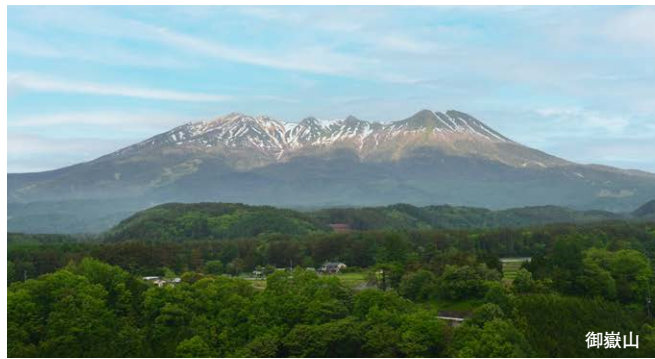
「奈良井千軒」とも謳われる木曽街道随一の宿場として栄えました。尾張藩から支給された御免白木は、檜の細工・塗物などに加工され、漆工町木曽平沢と共に木工品や漆工品の名産地として発展することになりました。妻籠城南麓の妻籠宿は、木曽十二宿中最も小さな宿場でしたが、旅館や地場産業従事者も多く、木地師によるろくろ細工の木工品や、御免白木の許可を得た農家の女性たちによる「蘭檜笠」が産業化され各地に広まりました。

御嶽信仰と木曽路

江戸時代中期、御嶽登拝が盛んになり全国から多くの信者が訪れるようになります。登山道脇の数万基にのぼる「霊神碑」がその信仰の深さを物語り、往来する御嶽参りの人々によつて木曽路の交流・交易はさらに促進され、修験者が携帯したとされる「そは」は百草などと共に御嶽山麓の特産として全国に知られることになりました。

蘇る檜 継承される心

近世に入ると、御嶽山麓に木曽檜を満載した「森林鉄道」が走り、木曽檜は再び木曽の代名詞として蘇り、地場産業は全国に名高い木曽馬や伝統工芸品として結実しました。木曽路最南端、馬籠宿出身の文豪・島崎藤村は、小説「夜明け前」の冒頭で「木曽路はすべて山の中」と著しましたが、木曽谷の人びと、山河、



御嶽山

*1 式年遷宮：内宮・外宮の正殿・社殿を建て替え、神座を遷すこと
*2 木曽五木：檜(ひのき)・榎(さくら)・ねずこ・翌檜(あすなろ)・高野槇(こうやまき)のこと
*3 御免白木：使用が許可された材木を割って半製品にした材料のこと
*4 霊神碑：死後、魂が御嶽山に還ることを願って建てられた石碑のこと



お六櫛



木曽馬



妻籠宿



奈良井宿



そは



漆器

日本遺産 木曽紀行

曲がりくねった石畳の峠を越え、深い谷を辿り、山あいの11の宿場を結ぶ中山道・木曽路。佇めば、江戸へ 京へと往来する旅人たちの足音が聞こえてきそう。肩を寄せ合うように軒を連ねる格子戸の家並みが、遙か江戸の時代を色濃く残す。さあ、のんびりと木曽路めぐり歩きの旅に出かけませんか。



7 木祖村史跡
鳥居峠(木祖村) D-3
御嶽遺跡群があり芭蕉の「ひびりより 上に やすう峠かな」の句碑などが立ち並ぶ。



9 お六桶の技法(木祖村) D-3
頭痛もちのお六が、ミネバリに桶にして髪を梳いたところ全快したのといひ伝えのある桶。



10 水木沢天然林
「水木沢郷土の森」(木祖村) D-3
樹齢300年を超えるのヒノキやトチノキなどの針葉樹・広葉樹の天然混交林。



11 木曽馬(木曽町・南木曽町) C-3
道産子や御崎馬と並ぶ日本在来馬種で開田高原に「木曽馬の里」がある。



13 福島関所(木曽町) D-4
天下の四大関所のひとつ。中山道の「出女」「入り鉄砲」を厳しく取り締まった。



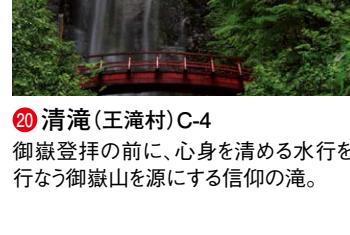
15 木曽御嶽山神社群(木曽町・王滝村) B4-C4
御嶽詣の人々により死後魂が御嶽に還るよう願って建てられた石碑群。



17 木曽踊りと木曽節(木曽町) D-4
木曽踊りは義仲の供養、木曽節は「おんたけ節」筏師の歌を取り入れた民謡。



18 高瀬家(木曽町) D-4
文豪島崎藤村の姉である園の嫁ぎ先で、高瀬家は、代々関所番を務めた。



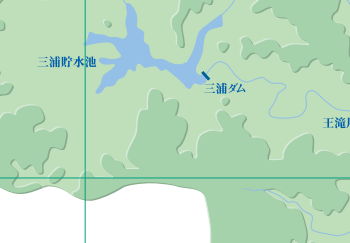
20 清滝(王滝村) C-4
御嶽登拝の前に、心身を清める水行を行なう御嶽山を源にする信仰の滝。



8 鳥居峠のトチノキ群(木祖村) D-3
トチノキの巨木が林立し、「木曾の栃うき世の人の土産かな」の芭蕉句碑がある。



14 県宝山下家(木曽町) C-3
庄屋を勤め、馬込で大馬主の山下家は、馬を農業に貸し、農家は仔馬を育てて収入を得た。



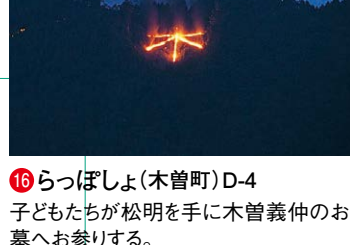
16 らっぽしよ(木曽町) D-4
子どもたちが松明を手に木曽義仲のお墓へお参りする。



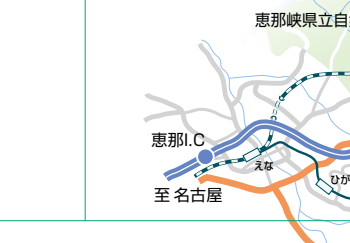
12 山村代官屋敷(木曽町) D-4
江戸時代、木曽谷に地場産業を奨励した代官・山村家の屋敷。



19 御嶽神社里宮(王滝村・木曽町) C-4
御嶽山頂の御嶽山座王大神理の里社として全国にその信仰が広まった。



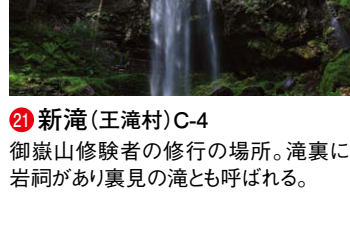
21 新滝(王滝村) C-4
御嶽山修験者の修行の場所。滝裏に岩洞があり裏見の滝と呼ばれる。



22 百草元祖の碑(王滝村) C-4
百草は御嶽山開祖の覚明と普賢により伝授され、「御神薬」として信者に広まった。



23 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川家康による五街道の一つ。石畳など当時の中山道の旧態が残されている。



24 妻籠城跡(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

25 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

26 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

27 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

28 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

29 清滝(王滝村) C-4
御嶽登拝の前に、心身を清める水行を行なう御嶽山を源にする信仰の滝。

30 妻籠宿保存地区(南木曽町) C-6
江戸から42番目の宿場として慶長6年に制定。江戸期の趣を色濃く残す宿場町。

31 蘭松笠(南木曽町) C-6
寛文2年に飛騨から来た人によって伝えられた松の「ひで」で編まれた手作りの笠。

32 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

33 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

34 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

35 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

36 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

37 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

38 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

39 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

40 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

41 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

42 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

43 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

44 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

45 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

46 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

47 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

48 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

49 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

50 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

51 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

52 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

53 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

54 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

55 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

56 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

57 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

58 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

59 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

60 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

61 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

62 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

63 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

64 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

65 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

66 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

67 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

68 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

69 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

70 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

71 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

72 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

73 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

74 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

75 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

76 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

77 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

78 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

79 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

80 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

81 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

82 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

83 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

84 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

85 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

86 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

87 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

88 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

89 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

90 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

91 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

92 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

93 史跡 中山道(南木曽町) C-6
徳川時代に整備された城跡。帯曲輪や空堀などは原型をよくとどめている。

94 一石板立場茶屋(南木曽町) C-7
中山道沿いにある一石板は、古くから旅人が疲れをいやす休憩地として栄えた。

95 木曽の朴葉巻(木曽地域)
木曽の名物で、米の粉を練り中に餡をつめて朴の葉で包んで蒸した餅菓子。

96 旧帝室林野局木曽支庁庁舎(木曽町) D-4
御料林(皇室財産)を管理・経営した庁舎。木曽山の威光と歴史を今に伝える。

97 島崎藤村宅(馬籠宿本陣跡(岐阜県中津川市) C-7
「夜明け前」の作者である島崎藤村の生誕地。隠居所は江戸期の建造物。

